

研究種別	一般研究課題	
研究課題名	ブロイラーの飼料費低減と肉質向上を図る飼養管理技術の開発	
研究期間	令和6年度 ~ 令和8年度	
	評価項目	平均点
1	研究の必要性	4.2
2	研究内容の新規性	4.2
3	研究目標、研究計画の妥当性	4.2
4	研究予算、研究体制の妥当性	3.8
	総合評点	4.1
[コメント] 脚弱、突然死、胸肉の木質化など、育種改良の弊害による収益の減少に対する技術開発が生産現場から求められている。ブロイラー産業の発展に資する大変重要な研究と考えられる。 これまでの肉用鶏は生産速度重視であったが、逆に成長速度を緩める策で収益を向上させる試みはこれまでにない発想であり、新規性がある。 研究の目標は明確になっており、その計画も3年間で達成し得ると考える。成果が出るように進めてほしい。 担当者は飼養技術だけでなく、今回検討を行う飼料栄養の見識も豊富であり、問題なく研究を遂行できると考えられる。予算の算定も適切である。予算を有効に活用し、しっかりと成果を出してほしい。 これまで効率一辺倒のブロイラー飼養について、異なる切り口から生産性の向上を目指す取り組みであり、収益改善につながる技術の開発が期待できる。		

研究種別	一般研究課題	
研究課題名	黒毛和種子牛における高栄養早期離乳プログラムの開発	
研究期間	令和6年度 ~ 令和8年度	
	評価項目	平均点
1	研究の必要性	4.2
2	研究内容の新規性	4.0
3	研究目標、研究計画の妥当性	3.8
4	研究予算、研究体制の妥当性	3.6
	総合評点	3.9
[コメント] 素畜高、飼料高、労働力不足の中、コスト低減および労働負担軽減のニーズは強く、それに対応する研究である。 早期離乳技術と補助栄養資材投与を組み合わせた知見はほとんどなく、新規性は十分にありとされる。 3つの課題から構成されており、いずれも妥当な目標が設定されている。試験の計画も3年間で達成し得るとされる。牛の個体差を考慮しながら研究を進めてほしい。 統計処理が可能な供試頭数が確保されており、試験の規模も妥当とされる。調査項目についても現有機器での測定が可能である。予算も算定も適切である。 資材費と労力の両方を低減できる成果を期待しています。早期離乳プログラムで育てた牛の出荷時までの追跡調査を行い、従来技術と遜色ないことが確認できればより良いと考えます。		